

森林環境譲与税の活用方法は 答弁Ⅱ補助事業として モデル的に着手



筒井 一水 議員

森林環境譲与税は、森林の整備及びその促進に要する経費の財源に充てられた

め、設置されている。
仁淀川漁協より河川の荒廃を危惧して、森林環境譲与税を活用し河川周辺の森林整備の陳情書が町に出されていると聞くが、どのように対応するのか。

野村森林政策課長

溪畔林整備による魚類の生息に適した河川環境への誘導に向けた施策に森林環



両岸が繁茂している河川

境譲与税を活用することについては「森林の整備に関する施策」に該当するものと考えており、検討を進め森林環境譲与税を財源に、早ければ令和2年度の補助事業としてモデル的に着手したい。

避難所における 安心・安全の確保

筒井議員

平成29年第4回定例会において避難時にソーラーパネルを利用した照明設備の設置の質問をし、検討すると答弁であったが、対応は。

土居総務課長

避難所における照明設備は非常に重要な設備の一つと考えている。現在避難所への非常照明設備としては、投光器などを配備している。

また、最近では電源がないときに水と塩で点灯する照明などの防災用品も出ており、一部の施設には整備している。

今後においても施設の規模や資機材の保有状況に応じた照明整備を配備していく。

避難灯(防犯灯)の 整備を

筒井議員

避難所の近くの道路に明かりがなく夜間避難時、危険な場所が多く見られる。下八川の体育館が避難所に指定されているが、体育館に入る道路は三差路になっているが防犯灯がなく大変



明かりのない三差路

危険と感じるが、対応をどのように考えているのか。

田岡吾北総合支所次長

下八川土居など、中山間地域の避難所においては、住民の方が夜間避難する場合など、避難時に危険を伴う場合がある。

そのため、避難路の照明については防犯灯がその一端を担っていると認識しているが、商用電源が確保できない場合には、簡易なソーラーパネル式の防犯灯などが有効に活用できるものと考えている。

災害を想定した避難時の事故防止や安全性の確保といった点からも、商用電源や太陽光などを活用した多様性を持った防犯灯のあり方や実情に応じた避難所整備を、今後も地域、自主防災組織などと一緒になって考える。